

アコモード

タイムズ

第58号

編集・発行

社会福祉法人 アコモード

- 特別養護老人ホーム アコモード
- アコモード指定居宅介護支援事業所
- アコモードヘルパーステーション
- デイサービスセンター アコモード
- グループホーム アンダンテⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アザレアⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アヴァンセⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アメリカⅠ・Ⅱ
- 特別養護老人ホーム アクイール
- デイサービスセンター アクイール
- キッズルーム アクイール
- キッズルーム アコモード
- アンジェリカ保育園
- 我孫子市高齢者福祉センターつつじ荘
- 我孫子市布佐・新木地区地域包括支援センター
- 我孫子市我孫子南地区地域包括支援センター
- アコモード相談支援事業所

千葉県我孫子市布佐1559-2

Tel.04 (7189) 5201・Fax.04 (7189) 5203

『どう生きたいか』に寄り添うこと

特別養護老人ホーム アクイール

生活相談員

金井 雄司

昨年は多くのご高配をいただき誠にありがとうございました。令和八年が皆様にとって素晴らしい一年となるようお祈り申し上げます。

二〇二五年の世界平均寿命ランキングで、日本は男性八二歳（第三位）、女性が八八歳（第一位）と発表されています。世界トップクラスの長寿国である日本、女性の二人に一人が九〇歳まで生きる時代とのこと。これは日本の食生活や医療技術の進歩、医療制度や衛生環境が整っていることを示しています。とても誇らしいことだと思います。ただ一方で団塊世代の方が後期高齢者となることで起こる様々な諸問題、いわゆる二〇二五年問題に突入して一年、今後ますます医療・介護ニーズの増加や少子化による人手不足などの社会問題は引き続き二〇四〇年問題と呼ばれるほど深刻で、「長寿Ⅱ社会に悪影響」というイメージが広がらないか懸念しています。

生活相談員として関わらせていただく方々の平均年齢もあがっていて、入居希望のご相談等でお話をしている際、その息子様・娘様から、「もうすぐ自分もお世話になります」というお言葉を聞くことも珍しくなくなってきました。

高齢化はご入居者の重度化にも比例します。昨年の一年間で特別養護老人ホームアクイールを選んでいただき新たに入居された方は二十四名いらっしゃいました。そのうち半数近くの方が九〇歳を超えており、二〇二六年一月時点で、全入居者一〇〇名様のうち九〇歳以上の方が四二名と、全体の四割を占めています。加齢や認知症・感染症等の病気がきっかけで心身機能が低下、不安定な状態の方も多くいらっしゃるなか、自ら意思を表明することが難しいご入居者の尊厳をどのように守っていくのか、そのためにどのような自立支援が必要か、試行錯誤を重ねています。

先日、認知症の進行で全面的に介助が必要なご入居者が発熱され病院へ受診にお連れした際、血液検査や点滴で、四回も針を刺し直すことがありました。一〇〇歳近くの高齢で血管が脆く細い為難しかったようです。両腕にいくつも貼られた絆創膏をみて考えたのは「ご本人はこの医療行為を望まれたのだろうか」ということでした。

忘れてはいけない視点は、殆どのご入居者にとってアクイールでの生活は人生の終盤・集大成といったいい位置づけにあるということです。そのような大事な

な生活のなかで起こる、人生を左右する選択のひとつに、医療の選択があります。受けられる治療はしたい、と思われる方もいれば、入院したくない、出来るだけ慣れた場所で暮らしたいと希望される方もいるでしょう。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）ー人生会議ー。将来の人生をどのように生活し、どのような医療やケアを受けて最期を迎えたいかを、環境や体調の変化に応じてご家族やケアの担当者等と繰り返し話し合いを行うプロセスのことをいいます。これは延命治療の選択だけではなく、病気になった時にどこにいたいのか、受けたい、または受けたくない医療行為はなにか等、詳細な表明をするもので、「どう生きたいか」という意思表示でもあります。ご入居者の尊厳を守るうえでも重要な取り組みだと考えています。

「自立」は「自律」とも書き、前者は物理的な独立を、後者は他者の強制を受けず自分で自分のことを決めて行動すること、すなわち精神的な独立のことをいいます。アクイールにご入居された皆様にとってはどちらの支援も大事とし、引き続きケアの向上に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



ケアマネージャー、頑張っています！

法人では子ども、障害者、高齢者の福祉サービスを提供しており、そこでは様々な資格を持った職員が専門職として各事業所に配属されています。その資格のひとつ、ケアマネージャー（介護支援専門員）は、要介護者やそのご家族に対し、適切な介護サービスを提供する為の調整を行う、介護保険制度において重要な役割を持った専門職です。

多岐にわたる業務内容や、人間関係の悩み、責任の重さ等からか、大変な仕事だというイメージが強く、全国的になり手が少ない人材不足といわれている職種でもあります。そこで今回、法人内で働いているケアマネージャーの皆さんから、実際に仕事をしていて大変な所や、やりがいを感じたこと等、生の声を聞いてみました。

要介護者が自宅において自立した生活を送れるよう、ケアプランの作成や介護サービスの調整を行う事業所であるアコモード居宅介護支援事業所では、八名のケアマネージャーが働いています。

―地域の状況について。

「超高齢社会の今、特に一人暮らしの方が増えていると実感しています。ただ、団塊世代の方は皆さんお元気です。サービスに関する知識をお持ちの方も多く、私達もしっかり準備してご相談に応じています」



―ケアマネージャーとして意識していることは？

「一番はその方と信頼関係を築けるようにすることです。事務的ににならないよう日常会話や自分達の話題を織り交ぜてお話ししやすい雰囲気づくりを心掛けています。ご要望の中に現実にごわな部分がある場合でも、「頭ごなしに否定するのではなく、まずは傾聴・共感を。後からハードルを下げたご提案をする等配慮しています」

―大変なことや困ることもありますか？

「何かあった時、〃ケアマネならなんでもできる〃と思われがちなところですね。決して何でも屋ではないので。サービスの調整役としてできることを丁寧に説明して、一緒に考えるようにしています」

―やはりそこでも信頼関係が大事になってきますね。

「残念ながら本音を話していただけるのはその方に接する機会が多い日々訪問サービスに入っているヘルパーさんだったりするので。だからこそお会いする時には関係の構築に注力しています」

―やりがいを感じたり、やっていたよかったと思うことは？

「課題を抱えているご利用者にサービスを調整・導入した結果、その方の生活が改善した時、やりがいと達成感を感じます。歩行が難しくなられた方にリハビリのサービスを導入した結果歩けるようになったら、元の生活に戻れた時は本当に嬉しかったです。あと私達ケアマネージャーは他の事業所さんに実際のケアをお任せする立場ですが、色々な相談に応じてもらったり、困難なケースでも快く受け入れてくれたりと、いつも助けられているなあと。チームのような一体感を感じられる仕事に就けることは幸せなことだと思います」



特別養護老人ホームのような介護保険施設に入所されている方々に対してケアプラン作成やサービス内容の調整を行うのが施設ケアマネージャーです。本来の役割は在宅ケアマネージャーと変わりありませんが、施設内の介護・事務・相談業務等と兼務することが多く、仕事の進め方に大きな違いがあります。法人内にある特養、アコモードとアクイールの施設ケアマネージャー二人にも話を聞いてみました。

―施設ケアマネージャーとして意識していることは？

「介護保険制度では特養の役割のひとつとして、在宅復帰の検討という位置づけがあるので意識はしますが、実際ご入居される方のご家族の頭の中にはその可能性はほとんどないといった状況です。私もそれはそれでいいと思っています。施設の中でどのように生活の質を保ちながら過ごしていただくかがプランのメインになっています」

— 仕事の進め方など、課題もおおいのでは？

「相談業務や介護現場のヘルプに入ることも多いため、集中できないことがあります。また、ご入居者とはいっても直接お会いできるので状況の把握は可能なのですが、ご家族とのコミュニケーションに難しさを感じています。ご面会に来られる方には直接計画書を説明できますが他の方は郵送や電話でのやりとりになるので」

「私もケアマネ以外の仕事に関してどこまでやっていいのか明確な線引きがないので戸惑うことがあります。ご入居者の状況把握として、介護士・看護師・栄養士・理学療法士が集まってカンファレンスを開催しているので、関連職種との連携は良好です。一方ご入居者と一対一でお話する機会があまりないのでもっと時間を作って現場に入っていきたい」

— なにか成功体験がありますか？

「以前かかりつけ医がお看取りをしてくれた時期があつて。対象になったご入居者を中心に、ご家族や職員とよく話し合いを行い環境づくりからケアの内容を調整、穏やかな最期を迎えることができました。ご入居者の人生の最期に関われたことは光栄でしたし達成感がありました」



これまで義務付けられていた五年ごとの更新制度が廃止される方向で検討がすすんでいるケアマネジャー資格。処遇改善も実現すればやりがいと安定を兼ね備えた職種として見直されるでしょう。

地域の「高齢者の健康と元気はここから

「高齢者福祉センターつつじ荘」の活動

地域の高齢者に健康増進、レクリエーション活動の場等を提供する老人福祉センター。西部福祉センターが閉館となり、令和七年四月から我孫子市ではつつじ荘一館となりました。ご利用者が市内全域からお越しになり、人数が増えたので毎日とても賑わっています。

毎年九月には敬老の日に伴いイベントを行っています。令和七年九月十五日は、西部福祉センターを利用なさっていた方よりご紹介いただき、フルート奏者の長堀美佳さん出演の演奏会を開催しました！当日は二〇〇名以上のご利用者が鑑賞、「知っている映画の曲が聴けて感動した」「イントロクイズが楽しかった」等の感想がきかれ、皆様楽しまれた様子でした。



ご利用者が増えたことで変わったことと言えば、「千羽鶴づくり」です。つつじ荘では毎年八月、我孫子市の事業として行われている平和祈念式典に千羽鶴の寄贈を行っています。これまでご利用者が鶴を折り、千羽鶴としてまとめる作業はボランティアさんをお願いしていましたが、人数が増えたことにより折り鶴の量も増え、負担増に。今年からはご利用者が千羽鶴をつくる全工程を行うことになりました。慣れない作業で戸惑いながらも、式典に間に合うよう心を込めて作成頑張ります！

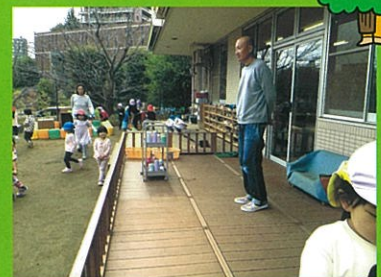
アンジェリカ保育園 緑化計画進行中!



JR我孫子駅から徒歩8分、周囲をマンションで囲まれた、車の交通量が比較的多い場所にあるアンジェリカ保育園では、「子ども達に出来るだけ自然に触れてほしい」という思いから、「千葉県自然環境保育認証」を受け、園内の自然緑化を進めています。

令和六年夏に設置したウッドデッキは大きさを広げ、制作活動を行えるスペースができました。園庭の端にあった築山（人口の山）は中央へ移動。今はまだはげ山でトンネルがあるのみですが、今後滑り台をつくったり草木を植える予定。アンジェリカのシンボルとして皆さんに親しんでいただきたいです。他にも新たな植樹、木のトンネル、木の周りにベンチを置くなど、園庭が賑やかになってきました。木陰で夏の日差しが少しでも和らぐのも期待しています。

松尾園長は「園庭だけではなく、子ども達が普段から手に触れる機会が多い施設内の設備も自然なものにしていきたいと思っています。費用の問題があるので簡単ではありませんが、壁も今の壁紙から天然木にできればいいかな」とこれから展望を語ってくれました。



幅を広げたウッドデッキから、元気に遊んでいる園児達を暖かな目で見守る松尾園長。ゆったりとしたスペースになりました。



ウッドデッキに置いたテーブルにて。昨年十月、あけぼの山公園へ遠足に行った際拾ったまどんぐりや落ち葉でオーナメントをつくりました!



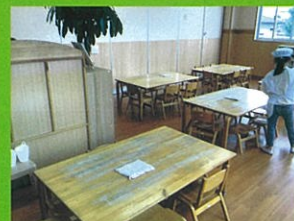
令和六年三月に植樹したドイツトウヒの木。令和七年九月に木のまわりを囲うようにベンチをつくりました。トンネルを覆っているのはレンギョウ。春に黄金色の花を咲かせてトンネルを輝かせてくれるでしょう。



令和7年8月に園庭の中央に移動した築山。これから緑いっぱいになりますよ。園児と同じように園庭の成長も楽しみに見守っていきます。



フランス生まれの積み木、KAPLA（カブラ）。形が一種類しかないので表現に工夫が必要。世界で大人気の知育玩具でフランスでは国の教育システムでも使われています。ちなみに置いていたのは類似品です（笑）。園児たちにも大好評で、何日もかけて制作に没頭すること。



園内にある遊具や家具。自然素材をふんだんに取り入れています。木のぬくもりや心地よさが全体を包んでいます。



ブラジルの熱気が我孫子に!

湖北サンパニ〇二五

令和七年十月十九日、湖北駅南口周辺で開催された「湖北サンパニ〇二五」に、特別養護老人ホームアコモードのご入居者が参加してきました。ダンサーの皆様と握手やハイタッチで触れ合う機会もあり、大熱狂の空間で感動の涙を流される方も。踊りの経験がある方が「私も昔やっていたんだよ。踊りたいねえ」と興奮気味に話されていたのが印象的でした。



支えられています

～ボランティア紹介①～

特養やデイサービスでは、ご入居者・ご利用者の生活の質を向上させる目的で、ボランティア受け入れを行っていますが、コロナ禍の間中断していましたが、五類になった令和五年五月から受け入れを再開、ご利用者の生活に再び刺激と潤いをもたらしてくださっています。ここからはそんなボランティアの皆様をその活動を中心に紹介していきます。

【お化粧ボランティアりんこの木】

二〇二一年に設立されたりんこの木の皆様は、メンバーも高齢化等で入れ替わりながら、長く活動されています。アコモード特養には一〇年以上前から来ていただいていて、ご入居者はハンドマッサージやマニキュアを塗ってもらいながら会話を楽しみ、最後にみんなで懐かしい歌を合唱しています。団体のキャッチコピー「『情けは人の為ならず』の本当の意味を体験できます」の意味を伺うと、「この意味を『助けると結局その人の為にならない』と間違えている人が多い。本来は『人に親切にすればその行いがいつか自分に帰ってくる』という意味です。私達は一回の活動で数名の方にハンドク

リームを塗りながらマッサージを行います。たった五分のマッサージでも白くつるつるに、少し手がふつくとされるので効果がありますが、実は塗っている私達が一番クリームが手について潤っている。自分に帰ってきてますよね」と笑顔でお話してくださいました。



【音楽グループかたつむり】

二〇一七年に結成され、ボーカル・ベース・ウクレレ・キーボードの4名で活動されている音楽グループかたつむり。誰もが歌える曲や季節に合わせた曲を織り交ぜ演奏され、場を盛り上げてくださっています。「メンバーも高齢なので無理のないよう活動しています。職員の皆さんも一緒に盛り上げてくれるので難しいです」

曲の選定は、「出来るだけ皆さんの年代が楽しめる曲を選んでいます。思いもよらない曲が受けたりますので毎回楽しみです。いただいたリクエストも披露できるよう一生懸命練習しています」ご利用者からは「毎月楽しみにしているのよ」「東京ブギウギが好き」などの声が聞かれています。



「福祉のしごと相談会」出展

令和七年十一月十五日、アビイクオーレ三階ホールで開催された市内二〇を超える福祉事業所による就労相談会に、社会福祉法人アコモードも出展してきました。福祉の仕事には「生活の支援」という大きな共通項はありますが、実際各事業所でどんな仕事をしているか、一般的にはまだ認知度は低いと言えるでしょう。アコモードのブースにも沢山の相談者が訪れ、実際の仕事内容や勤務形態など、具体的な説明を真剣に聞かれました。





出産報告



令和7年8月8日 第3子

織屋和美さん
(アンジェリカ保育園)
奈都(なつ)くん



令和7年11月14日 第2子

佐藤美咲さん
(アンジェリカ保育園)
杏咲(あさ)ちゃん



「ちばSDGsパートナー」に登録しています！

「持続可能な世界」
を達成する為に、
法人全体で取り組
んでいます！



ちばSDGs
ちばSDGsパートナー 353号

編集後記

法人全体の望年会に参加しました。
数少ない他事業所職員との会食の場、
さらに参加者全員が仕事中には着け
ているマスクを外しているからか、色々
な意味で開放的に。やっぱり笑顔って
いいなと痛感。マスクを着けたままで
も相手に好印象を与えられるよう目
もとの表情筋を鍛えようと思います。

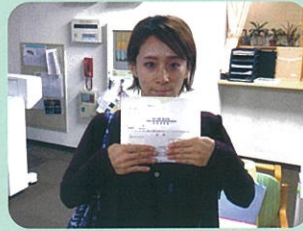
(広報委員)

資格取得報告

令和七年

〈ケアマネージャー〉

酒井由貴子さん
(アキールデイサービス)



一生懸命頑張りますので
これからもよろしく
お願いします

宮本 真理子 さん
(グループホームアンダンテ)

「家事や仕事との並立しながらの
試験勉強でしたが楽しかったです。
これから約六ヶ月間かけての研修
が始まりますが、そこでも楽しみ
ながら精進して参ります」

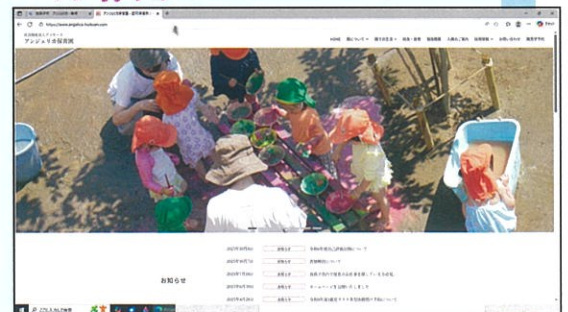
各種ウェブページもご覧ください！

社会福祉法人アコモードWEBサイト



各事業所の紹介、求人情報など随時更新しています。
最新の広報誌も掲載中です！

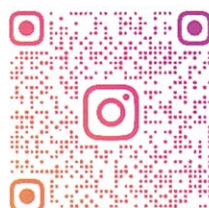
アンジェリカ保育園ホームページ



入園案内やお知らせを更新しています



Instagram いいね・フォローお願いします！
インスタグラム



ABIKOANGELICA
アンジェリカ保育園



@ACU6511
特養アキール



ACOMODER
アコモード

フォロー
1500人
突破！